



長谷川 閑史

副代表幹事
企業経営委員会 委員長

武田薬品工業 取締役社長

読者の方々の中には、「食事、睡眠、アリナミン」という当社製品のキャッチコピーを耳にしたことがある方もおられると思います。ところで私は、同友会誌の誌面を借りて当社製品の宣伝をするつもりは毛頭ございません。私が申しあげたいのは、冒頭のキャッチコピーの「アリナミン」の部分に「運動」を当てはめてみますと、万人に共通の健康の秘訣になるということです。即ち、身体に良い食事を腹八分摂り、適度な睡眠・リフレッシュを実行し、適度な運動を行うことが健康維持・増進に最も効果的であることは大部分の人が知っています。しかしながら、これを日常生活の中できちんと実行できているかとなると、疑問符がつく方が多いのではないかと拝察します。つまり、こうすればいい、或いはこうした方がいいとわかっていながら、なかなか実行できないのが世の常なのです。

企業においても、ある意味では同じような事が言えるような気がします。即ち、多くの企業は3カ年計画や5カ年計画をたて、その中で将来を予

測し、問題点を洗い出し、戦略を立案しておられることと思います。私共の会社も例外ではありません。しかしながら、会社が対応すべき問題は洗い出せても、それをどのように解決していくかについて、実効性のあるアクションプランにまで落とし込み、愚直に着実に実行していき、その過程で想定外の事象が発生して実現が困難になった場合は、原点に戻って代替策を直ちに発動するという、事業運営の基本をきちんと実行できている会社がどれだけあるかという、これもまた「言うは易く行うは難し」の典型みたいなもので、特に経営者の目から見ると不満だらけという結果になるのではないのでしょうか。

要は、この世の中で何かを成し遂げようとする場合、それが個人であれ企業であれ、近道や秘策はなく、定めた目標の実現に向かって愚直に努力を続けるしかないということだと思います。

最後に、江崎玲於奈先生が引用しておられたパースツールの言葉を皆さんに贈ります。

“The chance favors the prepared mind.”

Contents

巻頭言 長谷川閑史	“The chance favors the prepared mind.”	001
特集・2006年度夏季セミナー〈後編〉	活力ある日本社会の構築に向けて	002
リレートーク 森田嘉彦	エドモンド・モレル研究と私	012
委員長インタビュー	企業と文化委員会 加賀見俊夫 人口一億人時代の日本委員会 森田富治郎	013
経済同友会最前線	企業と文化委員会提言 他	015
同友会スケッチ	2006年8月の記録と10月の予定	019
私の思い出写真館 瀬古茂男	私のドイツ語の家庭教師	022